



パラメントスクエアにて。銅像除幕式に参加するキャメロン(右)とブラウン(中)。キャメロンのスーツはマークス&スペンサーか。二人はネクタイの色も正反対
Getty Images/AFLO

エレガンスの社会学

その着こなしに理由アリ

文 中野香織

第10回

一 位ダニエル・クレイグ、二位デイヴィッド・キャメロン、三位クライヴ・オーウェン。2007年4月に英国版「GQ」誌が選んだベストドレッサーの順位である。

ちなみに近年「常勝」だったデイヴィッド・ベッカムは六位落ち、英王室の次男坊ハリー王子が兄ウィリアム王子をはるかに下押しして十位入りしていた。

さて、一位の「ジェームズ・ボンド」には親近感を感じても、二位の「デイヴィッド・キャメロン」となると、「だれ？」とぴんとこない方も少なくないのでないか。1966年10月生まれで41歳、まさにウオモ世代のキャメロンは、イギリス保守党の党首である。野党に甘んじている保守党の若返りを担うホープとして、2005年に党首に就任した。

伝 統的紳士養成機関、イートン校を卒業後、オックスフォード大学で哲学と政治、経済を学んだ。父も祖父も曾祖父も経済界で名をな

し、母は男爵家の次女。キャメロン自身もウィリアム4世(1830-1837年)に英国王)とその愛人、ドロテア・ジョーダンの血をひく。つまり、絵に描いたような「ザ・保守党」に属する人である。

そんなキャメロンが、党首就任以来、スタイルアイコンとして脚光を浴びる。国会議員の身で公の場にノーネクタイで登場したのは、この人がはじめて。当初スキヤダルすれすれのニュースになったが、以後、他の議員も模倣

し始めた。

2006年には、高級スーパーマーケット「マークス&スペンサー」でスーツとタイを購入した、と公言することによって暗に政治的メッセージを伝えるという離れ業もやってみせた。つまり「裕福であつても、気取った消費はしていない。世間のことを知っている」というメッセージを伝えると同時に、長い伝統を誇りつつも停滞し、だがみごとに現代的な復活を遂げたマークス&スペンサーというブランドに、保守党の再生のイメージを重ねてみせたのであつた。コンヴァースの限定スニーカーを愛用するカジユアルスタイルも、若い世代に親しみを抱かせた。

そんなキャメロンを、「GQ」誌は「ことごと同様、ルックスもニュースの見出しになることを理解している」政治家として、高く評価したわけである。

しかし、キャメロンは同誌のワーストドレッサーとしても上位入賞した。スタイルによる巧妙なパフォーマンスが、政治家としてどこか厚みや重みを欠くような感じをも漂わせるからではないか。実際、キャメロンは、きめどころではスーパーマーケットのストリートどころか「テイモシー・エヴェレスト」の高級スーツをばりつと着用しているし。

加

えて、今では妻のサマンサ・キャメロン問題が大きいのかかかっている。サム・キャムの愛称でも呼ばれる彼女は、英国王室御用達文具ブランド「スマイソン」のクリエティブディレクターでもある。「スマイソン」もまた、保守党と同様、伝統はあるが時代遅れになりかけていたコンサバブランドなのだが、1996年にディレクターに就任したサマンサが、みごとに現代のラゲ

影の首相が仕掛けるスタイル戦術の効果の程は…?

ジュアリーブランドとして復活させた。パブルガムピンクのカバーの聖書や「誘惑ノート」「秘密と願ひ」「罪のない嘘」という素敵なタイトルがついた革製ノートブックはサマンサのアイディアによるもの。

そこまではよかつたのだが、2006年のある会合で、キャメロン党首が「私の妻がつくるスマイソンのバッグ」とスピーチのなかで言及したあたりから雲行きがあやしくなり、2007年の8月に、サマンサがアメリカ版「ハーバースバザー」誌の表紙を子どもとともに飾り、保守党党首の妻にしてスマイソンのディレクターとしての「ファッショナブルな生活」を語るにいたつて、英国内で猛烈なパッシングが起きた。党首の妻という立場を利用してモノを売るなんてなんたる厚顔無恥、と。しかし、サマンサが秋に発売した「ナンシー」(娘の名でもある)というバッグは、3週間で3千個を売り上げた。それだけに、新聞各紙の論調からはサマンサに対する好意的な見方はほとんどどうかかわれず、むしろ妻をそこまで甘やかすデイヴィッドの立場を問題視する空気が感じられる。

ス

首夫妻がうさんくさく見えてくるなか、がせん評価を上げていくのが、労働党党首にして英国首相のゴードン・ブラウンである。本誌10月号でもとりあげた人であるが、当時よりも評価が格段に上昇している。ややきつめの白いシャツと「テイモシー・エヴェレスト」のダークスーツ(くしくもキャメロンと同じ。スーツはどのブランドを着るかはなく、どのように着るかが問題、という好例ですね)で地味に武装するオールドファッションな服装こそ、「スタイルなどではなく、実質で勝負す

る」という彼の政策をよく反映している、と好感を表明する声が続出。英「GQ」誌はこんな風にブラウンの装いを評する——「国民をスタイルなどによる混乱から遠ざけるべく生活をミニマムに編集したかのような、禪的なファッショントイイである」。禪、とききた。西洋人が「地味で質素なところがよい」というときに使う決めワードでもある。

8月のキャンブ・デイヴィッドでブッシュ大統領から贈られた名入りボンバージャケットの扱いも決つた。ブレア元首相はすぐにうれしそうに着て写真を撮られていたものだが、ブラウン首相に贈られたそれは、金の包み紙をあけられないままプリーツシユエアウエイズの座席に放置されていたという。英国には、外交の場で贈り物を受けたら同額のものをお返ししなくてはならないという決まりがある。ブラウン首相がブッシュ大統領に贈つたお返しは、「ある政治家の伝記」であつたと報じられた。

ス

タイトル競争のワナに落ちないならば、頑固な退屈さを批判されていたかもしれない。対立党党首のキャメロンがスタイルコンシャスに走れば走るほど、不本意にもブラウン首相の格を上げることには貢献しているという、なんとも皮肉で、ちよつと痛快でもある光景である。

Kaori Nakano
服飾師。人に会って、話を聞き、そして書くのがライフワーク。UOMOが提唱するエレガンスを、毎回人物を切り口にしてわかりやすくひもときます。著書に「モードの方程式」「着るものがない!」(ともに新潮社)などがある。